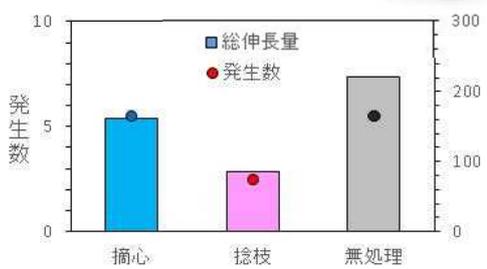
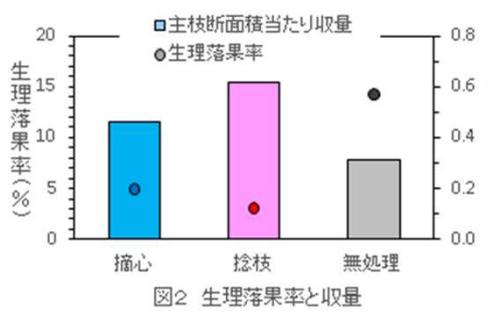


新梢管理でモモの高品質安定生産

【背景・目的・成果】近年、降水量の変動が著しくなり、モモ栽培において徒長枝や生理落果の多発、核割れ、糖度の低下など高品質安定生産が困難になっています。そこで、徒長的な新梢に対する摘心(てきしん)や捻枝(ねんし)が生理落果の抑制や品質向上に有効なことを明らかにしました。

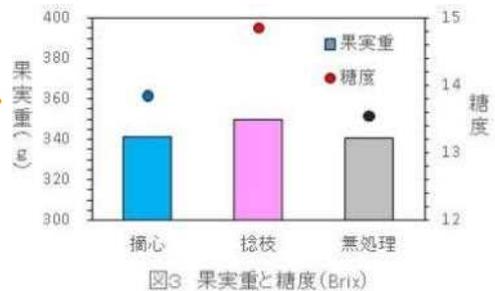


副梢の発生は摘心や捻枝によって抑制、特に捻枝の効果が高い (Secondary shoot occurrence is suppressed by pinching or twisting, with twisting having a particularly high effect).



生理落果は捻枝、さらに摘心でも減少することから収量が増加 (Physiological fruit drop is reduced by twisting, and even more by pinching, leading to an increase in yield).

果実重は無処理区と比べて捻枝区でやや大きく、糖度も両処理、特に捻枝により高まる傾向 (Fruit weight is slightly larger in the twisting treatment compared to the no-treatment area, and sugar content also tends to increase in both treatments, especially with twisting).



【技術の活用】主枝背面などから発生する徒長的な新梢に対して、5~6月に数回に分けて処理します。一度に多数の枝を処理すると、生理落果や核割れの発生を逆に助長することがあります。作業能率は捻枝に比べて摘心が高いですが、主枝背面の枝が少ないときは、日焼け防止のため捻枝も取り混ぜて行います。